

# 生徒自らが判断し主体的に行動できる力を身に付けるための避難訓練

～地震発生後の二次被害を想定して適切な避難経路を選択する～

校 種	高等学校	本時に関わる 資質・能力	知識・技能	○
対象学年等	第1～3学年		思考力・判断力・表現力等	◎
教 科 等	LHR		学びに向かう力	○

## 1 学習のねらい

地震による火災発生を想定して、安全な避難場所を確認したり状況に応じて避難経路を選択したりする活動を通して、災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、自ら判断し主体的に行動できる力を身に付ける。

## 2 取組の流れ

### (1) 避難訓練の予告と事前学習（避難訓練前日まで）

地震によって火災が起きた際の避難訓練を行うことを伝え、災害発生時にいる場所から集合場所となるグラウンドまでの経路を、一人一人が選択して避難を行うようにすることを知らせる。

ねらいは通常の避難訓練と異なり、自ら判断して行動する力を身に付けることであることを説明し、一人一人が状況に応じた避難経路を選択したり安全な避難場所を確認したりしながら、避難することを確認する。また、個々に避難をすることとなるが、全員が安全に避難するために廊下や階段でのスピード、また他者の行動などをよく見ながら、自らの避難行動を行う必要があることを押さえる。

<b>【今回の避難訓練】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が誘導できない状況を想定する。</li> <li>・並ばずに避難する</li> <li>・避難経路は個々に選択する。</li> </ul>	<b>【通常の避難訓練】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が誘導する。</li> <li>・並んで避難する。</li> <li>・避難経路は教職員が選択する。</li> </ul>
---	---



### (2) 避難訓練

教職員の動き	生徒の活動
○地震が発生し、その後火災が起きたことを想定して、非常ベルを鳴らす。	
○火災現場の確認をするために、教室で待機をすることを放送で連絡する。	・現在の場所からグラウンドへの避難経路を思い浮かべる。
○火元の確認及び避難開始の指示をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震発生に伴い、1階家庭科室が火元になっていることを知る。</li> <li>・現在の場所から火元となっている1階家庭科室を避けた避難経路を考える。</li> <li>・避難を開始する。</li> </ul>



訓練火災発生時



集合場所へ向かう様子

**生徒の感想**

- 火災発生近くの教室にいたので、火元から早く離れるように動きました。地震で棚が壊れたり落下物があったりすることを想像して避難しました。
- 校舎内から外に出るときに、出口に人が集まり出にくい所がありました。実際の避難では、事前の想定よりも複雑な動きになりそうです。



グラウンドへの集合の写真

- 火災によって、行き止まりになるところをテープで通れないようにしてあり、少し焦りました。その場所を通らないように考えていると、友達が「こっちへ行こう。」と瞬時に判断をしていました。これまでの避難訓練では考えてもいなかったようなことを考えたので、繰り返すことで、実際の避難のようになると思いました。

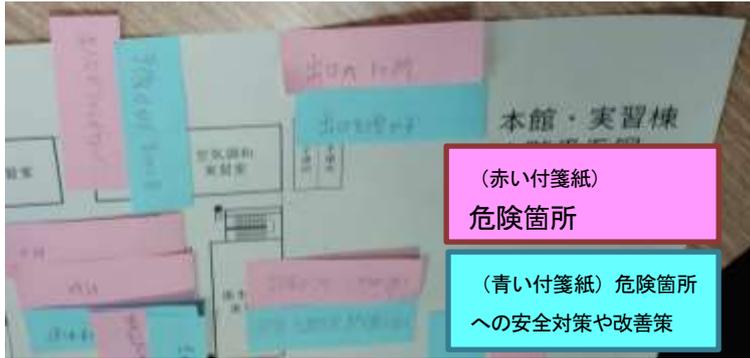
**(3) 避難訓練後の校内防災マップの作成**

訓練の経験を踏まえ、地震発生時に避難経路で起こりうる二次被害について考え、どのように対処したら良いかを考えて、防災マップにまとめる。

**活動の流れ**

- 避難訓練で、自身が避難した経路について、振り返りグループ内で発表する。
- 避難した経路にもう一度行き、危険箇所を再確認しながら、写真を撮ったり、別の経路を確認したりする。
- 地震発生時に避難経路で起こりうる二次被害について、思い当たるものを挙げたり、PCを使って調べたりする。
  - ・危険な箇所を赤の付箋紙に書き込み、図に貼り付ける。
  - ・危険な箇所の安全対策や改善案を青の付箋紙に書き込み、図に貼り付ける。
- グループで作成した防災マップを学級で発表し、二次被害にあわないために、さらに対処できることを考える。
- 今回の避難訓練について振り返り、フォームに書き込む。

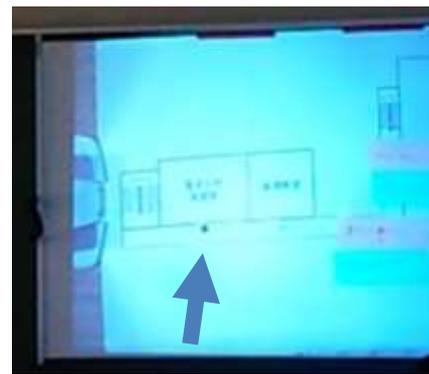
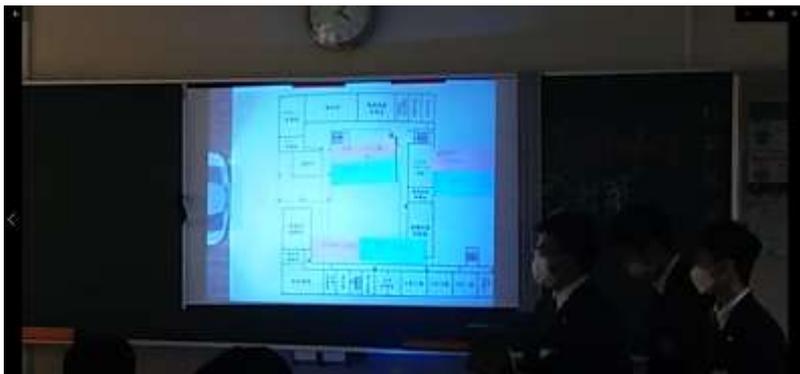
■災害発生時の危険箇所についての安全対策や改善策を考える



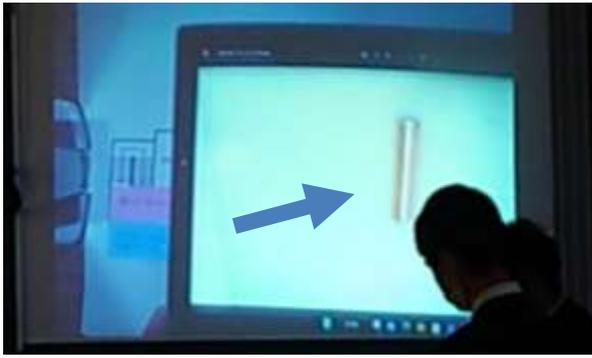
「校舎から屋外に出る時に、出口に人が密集して混雑をしていたので、その場でもっと臨機応変に、外への出方を変えた方がいいと思いました。」

「今回の火元は調理室だったけど、他にも火元となりそうな場所は危険な場所とした方がいいと思います。それと、同時に火事が起きた時にはどうするかを考えておく必要があると思います。」

■危険な箇所を撮影し学級で発表をしている様子



「この場所は、地震が起きると、棚が倒れたり棚にある物が崩れ落ちたりする危険があります。ここでは棚が倒れないように固定をしたり、物の整理をしたりする必要があります。また、地震発生時には通れなくなる可能性があります。」



「情報棟の蛍光灯は、このようにむき出しになっているので、落下の可能性があると思いました。落下したら、ガラスの破片が飛び散るので、足元に注意して避難する必要があります。」



「実習棟の天井は、構造上コードがむき出しになっているので、災害発生時には元の電源を切るなどの対応する必要があります。」



避難した経路にもう一度行き、危険箇所を再確認しながらマップ作りをしている様子

### 生徒の感想

- 防災の視点で見ると、物が多いところは危ないことが改めて分かりました。普段からの整理整頓をしていくことは、安全面においても大事だと気付きました。
- これまでの避難訓練は、先生に誘導をされ並んで避難することが多かったですが、災害に備えて安全に避難をするために、自分自身が状況に応じて判断しながら避難できるようにしておくことが必要だと思いました。
- 学校が避難所になったら、お年寄りや子供たちが来るので、学校にある調理室を活用して炊き出しを行うなど、学校の特徴を生かした備えをもっと考えておきたいです。
- 豪雨災害の時に、停電が起きて情報が遮断される経験をしたので、学校にある発電機を活用して、電気を提供できると思います。災害が起きたことを想定して、もっと実践的な防災訓練をしていく必要があると思いました。